

世界を知る

- ① 「世界とであうえほん」(出版:PIE international) の読み聞かせ
- ② ベトナム紹介
- ③ 教材「ぼくの名前」の学習

①は、大型テレビに本を映しだし、世界の伝統・文化について考えた。衣食住と伝統的な祭りや遊びを紹介した。②は「アオザイ」「フォー」「ムーラン」を紹介した。「フォー」では、「にゅうめんみたい。」「ムーラン」では、「獅子舞みたい。」という反応があり、身近な者をつなげたつづやきが多く聞かれた。③では、学習後、名前が2つあることに驚いていた児童がおり、多文化共生について新たに学べたことが伺えた。



絵本読み聞かせ

ベトナムの名前にもどしたぼくは、3年生になってからどんな風に生活しているでしょう。

学習後にワークシートに目を通し、分析をしてみた。この発問に対するワークシートの記述内容は、大きく分類して以下の6種類であった。

- ① 「フィ」という名前を大切にしている。9人
- ② ベトナム人としてのほこりを持って生きている。8人
- ③ 楽しく生活している。6人
- ④ 名前をつけてくれた親に感謝している。1人
- ⑤ 今までの日本風の暮らしから母国の暮らしに近づけて生活していく。1人
- ⑥ 友だちも変わらずフィと仲良く過ごし、フィもあまり変わらない生活をしている。1人

①の児童は、名前の重要性について、②については学習の前半部分で触れた伝統・文化のことと絡め、「自国愛・郷土愛」について深く考えられているように感じた。少数派である④⑤⑥は、どれも貴重な意見であり、学習の中で更に突っ込んで話し合う必要があったと思う。特に⑤と⑥を対比させて考えさせることにより、⑤であれば「郷土愛」の大切さについて、⑥であれば「認め合える仲間の良さ」の必要性について子どもたちに考えさせることができたのではないと思う。



発表風景

【主な児童の意見】

- ・ベトナムに今いなくても、ベトナムのことをみんなにもっと知ってもらいたいと思っている。
- ・みんなと変わらず仲良くすごしていて、「フィ」にもどしてよかったと思っている。
- ・ベトナム人のほこりがわき上がってきて名前を大切にしようと思っている。
- ・クラスのみんな以外にもベトナムの文化を伝えている。
- ・民族服を着て学校に行くこともあったと思う。



ふりかえり中

※子どもたちは世界の国々の異なる文化や生活習慣、価値観に対して興味を持つことができた。自分の名前についての家族の思いや願いを考えさせ、一人ひとりがかけがえのない存在であることに気づかせるきっかけは作ったが、今後も系統的に自己肯定感を高められるよう取り組んでいきたい。